

建築保存 道示す学びや

高野口小学校 和歌山県橋本市

下校時の様子。児童が長い廊下の奥に吸い込まれる



重厚な入り母屋屋根の正面玄関



《交通・見学》高野口小学校はJR和歌山線高野口駅から徒歩約10分。校舎の外観や石垣は周囲から見ることが出来る。現在も使っている校舎のため、「授業の妨げや学校の負担になる校舎内の見学はできるだけ遠慮いただきたい」(橋本市教育委員会文化スポーツ室)。問い合わせは同室(☎0736・33・1111)。

電子版にバックナンバーを掲載。▶Web刊→特集→関西発

長く奥行きのある木の廊下の床面は磨かれ、輝いている。薄暗くなると、高い天井からつるされた白熱電灯が床にくっきりと映る。大きな木枠のガラス窓。出入り口の木製建具……。和歌山県橋本市の高野口小学校の校舎は、初めて訪れた人にもどこか懐かしさを感じさせる風情がある。

建て替えも議論

1937年に建てられた瓦ぶき木造平屋の校舎は、南北98坪の正面棟に4つの東西の教室棟(60数坪)がクシの歯のようにつながり、各棟の間には広い中庭がある。正面玄関は入り母屋屋根で重厚さを醸し出している。建築関係者の間では「江戸時代の藩校のような風格がある」「スケールが大きく、戦前の学校建築の到達点を示す建物」と評される。

古い校舎は地域や日本の



元の有力者ら住民の寄付で賄われ、設計も地元出身の県庁職員が担当。施工も地元業者がしました。地域の歴史に詳しい高野口文化財研究会の三島英雄さんは語る。校舎の威容は高野山への参拝者でにぎわい、明治期以降はバイル織の一大生産地になった旧高野口町の地域力も示している。安全や利便を重視する学校の建物は年月がたつと建て替えられるのが普通だ。高野口小学校も1995年の阪神大震災後、建て替えを求める要望が出て、町議会ですでに承認された。その後、歴史と伝統を生かしたまちづくりの視点で保存を求める声が出て議論が続く、橋本市との合併(2006年)を挟んで三転した後、全体を保存して改修することになった。

重文、地域の宝に

改修工事終了後の14年、校舎は国の重要文化財に指定された。現役の小中学校校舎としては愛媛県八幡浜市の日土小学校に次いで2例目である。保存に疑問を感じていた住民もいたが、今は「地域の宝」として皆が誇る存在になっている。歴史を刻んだ学びやでは今約230人の児童が学ぶ。「何に価値があるのかを多くの人が考え抜いた」(本多教授)末に残った高野口小は、近代建築の保存と活用を考える生きた教科書にもなっているという。

その過程にかかわった本多友常(橋本市)は「外部の人が『文化財的

文 編集委員 堀田昇吾
写真 大岡敦